

普及センターだより

くりはら

第 125 号



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)
0228-22-9437 (先進技術班)
FAX 0228-22-6144
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp
URL <http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/>

宮城県栗原農業改良普及センター



「くりはら MMN 塾」開講 記念講演会

栗原農業の一層の発展を目指して

今年は5月の干ばつから7月の豪雨と、記録的な空模様が続きましたので、皆さまも収穫の秋を迎える喜びはひとしおではないでしょうか。

これから秋も深まり、農作業も一区切りがつく季節です。是非、自分の経営や集落をどのように発展させるか考えていただければと思います。それぞれに複式簿記の記帳、新規作目の導入、構成員のレベルアップ、加工販売などの検討、集落内農地の活用など、様々な懸案をお持ちだと思います。

普及センターでは先月から「M：もっと M：儲かる N：農業」塾を開講しました。講座の内容は様々です。興味と関心のある講座を自由選択し、課題解決や仲間づくりの契機にいただければと思います。8月22日から開始した農業簿記基礎講座には、70人近くの受講者が参加しています。受講への想いは様々ですが、熱心に各々の目標に向かって頑張っています。

今年の春に栗駒と金成で2つの農業法人が新しく設立されました。担い手として地域から大きな期待を受けて誕生したものです。集落と法人組織がお互いを育て研さんする中で、5年後、10年後には本県や東北を代表するような経営体に成長して欲しいと思います。

これから玄米、そば、大豆の放射性物質の検査が行われます。検査した全量が不検出となりますよう、カリの散布や深耕など引き続き皆様の御協力をお願いします。

毎日のように関税交渉の行方がマスコミで取り上げられ、今後の国の施策が気にかかる日々ではありますが、私たちに出来ることも多くあります。足下を見据えながら、自分の経営と栗原農業の発展を目指しましょう。

農業普及指導専門監
佐々木 宏 行

シリーズ

プロジェクト課題

No.1 水稲

栗原管内の水稲の品種構成は、「ひとめぼれ」が約85%を占め、実需者の多様な要望に応えることや異常気象等に対する危険分散の観点から、バランスのとれた品種構成が望まれます。そこで、晩生品種の「つや姫」や早生品種の「やまのしずく」、また業務用米として要望のある多収品種の「萌みのり」など、「ひとめぼれ」以外の品種の作付けを増やすため、普及センターでは各品種の実証ほを設置し、生育の情報を発信しながら、収量及び品質を確認しつつ作付け拡大を目指し支援しています。

特に「やまのしずく」はほとんど知られておらず、知名度アップからのスタートです。一迫商業高校商業研究部と連携しながら、キャラク

ターの作成や創作メニューの考案、またイベントへの参加など、少しでも知名度がアップするように活動しています。

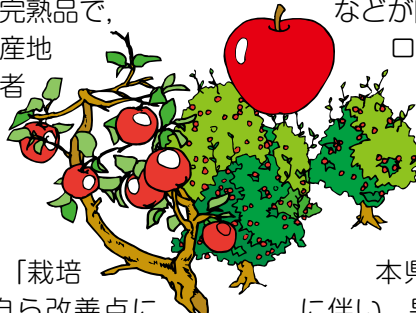
また、農地集積が図られ、稲作経営の大規模化が進む中、水稲直播栽培は非常に有効な手段と考えられ、近年の取り組み面積はかなり増加しています。特に管内においては「鉄コーティング湛水直播」及び「乾田直播」が多く、より一層の技術の習得と品質、収量の安定化を目指し支援していきます。



No.2 「栗原りんご」のブランド力向上に向けて

栗原市では金成、高清水を中心に約17haのりんご栽培が行われています。栗原りんごの特徴は、みつがたっぷり入った完熟品で、県内でも有数の高品質りんご産地となっています。近年、栽培者の高齢化による栽培面積の減少や技術格差が広がりつつあるほか、販路の開拓が課題となっています。

そこで、栽培者一人一人の「栽培者個別シート」を作成し、自ら改善点に気付くことで、栽培技術の高位平準化を図って



いくほか、これまで問題となっていなかった新たな害虫「ヒメボクトウ」、「スモモヒメシンクイ」などが隣接地域で発見されているため、フェロモントラップ調査や現地調査により発生状況を把握し、調査結果等の情報提供を行い、状況に応じた効果的な防除技術の習得を支援しています。

さらに販売面では加工特性の高い本県新品種「サワールージュ」の導入に伴い、果肉入りドレッシングなどの新商品の開発支援を行っていきます。

No.3 大規模農産物直売所の連携と活性化を目指して

栗原市内には、21カ所の農産物直売所が営業を行っており、その規模や特徴、運営形態はさまざま、各直売所とも独自の特色を生かして販売額向上の努力をしています。

今年度は、春に「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が展開され、期間中は各農産物直売所ともぼりやバッジ、イベントなどでキャンペーンを盛り上げました。また、若柳地区の農産物直売所「くりでん」では、惣菜、パン、もち各工房の味が一度に味わえる「くり弁」を新たに発売しました。くり弁は、隣接する若柳駅で行われる「くりでん乗車会」の際に販売し、人気となっています。

プロジェクト課題では、農産物直売所間の連携とさらなる販売額の向上を図るため、今年度は、直売所支援コースとして「直売所の運営に関する講座」及び「商品開発に関する講座」を開催することにしています。農産物直売所が、栗原の魅力を発信する拠点となり、地域に信頼され愛されるお店となるべく、支援していきます。



管内の放射性物質(セシウム)の検査について

普及センターでは、一昨年の11月からNaiシンチレーション検出器（放射性物質簡易測定器）を用いて、農産物や土壌、牧草等の放射性セシウムの濃度を測定しています。農産物の放射性セシウム濃度を継続的に確認しておくことは、消費者に対する安全の確保や風評被害の軽減に向けた安心の確保のために重要です。さらに重要なことは農地土壌等の放射性セシウム濃度を確認し、農産物中の放射性セシウム濃度を低減させる技術対策を実践していくことです。このため、農地土壌やたい肥の放射性セシウム濃度を測定し、栗原市やJA栗っこなどの関係機関と連携しながら、吸収抑制対策を進めています。

農産物については、昨年度は433件を検査しましたが、ほとんどの農産物は検出限界（11～20Bq/kg）以下でしたが、ブルーベリー（精密検査の結果190Bq/kg）1点が、基準値（100Bq/kg）を超えました。また、基準値の2分の1を超えたため精密検査を実施したものは、3点ありましたが、いずれも基準値以下でした。今年度は8月23日までに、89点を検査しましたが、ほとんどの農産物は、検出限界以下となっており、基準値を超えた農産物はありませんでした。なお、基準値の2分の1を超えた農産物もなかったため、精密検査の必要はありませんでした。

土壌は、昨年度に水田、畑等415地点を検査し、今年度もこれまでに水田、大豆作付予定ほ場など139点を検査しています。土壌については、放射性物質の吸収抑制対策関係で土壌中の養分分析も同時に行っています。また、たい肥については、昨年度74点、今年度は19点の検査を行いました。

放射性物質の吸収抑制対策では、土壌中のカリ含量が重要です。農作物が生育するのに適正なカリ含量が保たれていると、放射性物質の吸収を抑制し農産物中の放射性物質濃度が低下します。農林水産省では放射性物質の吸収抑制に必要なカリ含量を稲及び大豆では土壌100g当り25mg以上、そばでは土壌100g当り30mg以上としています。これらの

知見に基づいて土壌分析の結果を解析し、今年度の水稲、大豆、そばの作付けに当たっては作物ごとに塩化カリの散布量を算出するなど、栗原市が実施した放射性物質吸収抑制対策を支援しております。

牧草では、平成24年4月に飼料の暫定許容値が100Bq/kg（乳牛は50Bq/kg）と定められたことから、栗原市内の牧草地（水田転作牧草を含む）全ての除染（草地更新）に取り組んでいただいております。今年度、普及センターでは除染後の永年生牧草につきまして、畜産振興部と連携しながら繁殖農家968点の放射性物質検査を行いました。35点が50Bq/kgを超過し、6点が100Bq/kg超過という結果でした。

また、昨年度に基準値超過が確認されたブルーベリーについては、当該ほ場の実証ほを設置し、農業・園芸総合研究所と連携しながら放射性物質の低減対策を検討しています。今年度のブルーベリーは、出荷前に放射性物質のサンプル検査を行い、実証ほを除いて7月1日に出荷自粛が解除されました。

なお、昨年、基準値超過生産物が確認された、米、大豆、そばにつきましては、平成24年産の出荷前放射性物質検査の点数が大幅に増加しております。関係機関と連携しながら、早期の解除に向けて頑張りますので、サンプルの提供等の特段の御協力をよろしくお願いいたします。

平成25年度農産物の放射性物質簡易検査状況（4月1日から8月23日）

No.	品名	点数	No.	品名	点数	No.	品名	点数
1	いんげん	2	15	そらまめ	1	29	白菜	3
2	うめ	4	16	だいこん	9	30	葉たまねぎ	1
3	えだまめ	2	17	だいこんの葉	1	31	ピーマン	2
4	かぼちゃ	8	18	たまねぎ	2	32	ブルーベリー	3
5	キクイモ	1	19	チンゲンサイ	2	33	ブロッコリー	1
6	キャベツ	6	20	つぼみ菜	1	34	ほうれんそう	2
7	きゅうり	6	21	とうもろこし	1	35	まくわうり	1
8	クレソン	1	22	トマト	2	36	もも	2
9	ゴーヤ	1	23	長ねぎ	1	37	ゆうがお	1
10	こまつな	1	24	なす	2	38	らっきょう	1
11	さやえんどう	1	25	にら	1	39	りんご	1
12	じゃがいも	4	26	にんじん	1	40	レタス	3
13	ズッキーニ	4	27	にんにく	1			
14	せり	1	28	にんにくの芽	1			
							合計	89

特集**「くりはらMMN塾」開講****M**もっと **M**儲かる **N**農業

栗原市、栗っこ農業協同組合等と連携して、平成25年度から栗原管内の農業者を対象に技術力、経営力等の向上を図り、収益の向上につなげる塾を開講します。

これまで単発的に行ってきた講習会や研修会を農業経営者の方々が必要とする技術・経営のレベルに応じて自由に選択し、計画的に受講できるような体系に組み替え実施するもので、10コース、24講座でスタートします。

塾の基本（ベース）となる「**農業経営コース**」には、**農業簿記基礎講座**、**パソコン農業簿記講座**、**経営能力向上講座**、**農業経営トップセミナー及びマネジメントゲーム（MG）**を設定しています。マネジメントゲーム（MG）は、参加者が経営者（社長）となり、生産、販売、仕入れ、施設整備、雇用等の様々な判断を行い、経営感覚等を磨く内容です（1泊2日宿泊講座）。なお、マネジメントゲームの参加者数は定員15名となっています。

農業法人支援コースでは、**税務・会計・労務の管理部門の講座**の他に**6次産業化**、**ビジネスプラン作成支援の講座**を設定、**集落営農組織支援コース**では、集落の活性化、法人化の合意形成に必要な**合意形成養成講座**、集落の発展に必要な**集落ビジョンの策定支援講座**、**直売所支援コース**では、**直売所運営講座**、**生産向上・商品開発講座**を設定しています。

水稻、大豆、園芸（野菜・果樹・花き）等の品目ごとの**生産技術コース**では、基礎から高度な技術まで、受講生が必要としている内容を習得できます。

また、従来農業関連の研修では、実施機会が少なかった**企画力養成講座**（経営発展に必要な新規事業等の企画力向上に関する講座）や、**プレゼンテーション能力向上講座**（営業力、交渉力の向上）も設定しています。

受講を希望される方は、栗原農業改良普及センター、栗原市産業経済部農林振興課農政係（各総合支所）及び栗っこ農業協同組合本店（各支店営農センター）に配置するパンフレットの申し込み用紙又は当センターのホームページをご覧ください、受講を希望するコース、講座を選んでお申し込み下さい。

<http://www.pref.miyagi.jp/site/khnokai/>

トピックス



一迫商高「やまのしずく」の 広報宣伝活動で県大会初優勝

受賞おめでとうございます!

普及センターでは、平成24年度から水稻品種「やまのしずく」の知名度アップと作付け拡大を図るため、一迫商業高等学校商業研究部と連携を図りながら、様々な取組を行ってきました。平成25年7月13日（土）鹿島台商業高等学校で開催された第17回宮城県高等学校生徒商業研究発表大会において『「やまのしずく」の広報宣伝活動を通じて』をテーマに、「やまのしずく」の知名度アップに関する活動として、「こめたん」などのキャラクター作成、パンフレットやポスターの作成、「やまのしずく」に適應するメニュー作成などのPR活動について発表し、斬新な発想と行動力が評価され、初優勝し、東北大会に出場しました。今年度も一迫商業



高等学校商業研究部と連携により「やまのしずく」の知名度アップに加え、飲食店などに積極活用をアピールして「やまのしずく」の作付け拡大につなげていく計画にしています。



新しく2つの法人が設立しました。

平成25年2月、4月に、地域の農業を担う2つの法人が設立されましたのでご紹介します。

■NANO悠久農産株式会社

住所 栗駒桜田車尻37-1
代表取締役 蜂谷 聡氏

本年2月に蜂谷聡氏と鈴木洋氏の2名で農産物の生産、加工、販売と農作業受託を事業内容として設立されました。



【左から鈴木氏，蜂谷氏】

現在、自作地と利用権設定等により、水稻20ha、ホールクロープサイレージ等を5ha栽培し、直接販売も行っています。

会社名のnanoはギリシャ語で小人で、自然界の小人たちと永遠に農業をし農産物を作り続けていく意味から命名されました。

代表取締役の蜂谷氏は、父親の体調不良を契機にUターン就農しました。やがて地域から稲作を依頼されるようになり、会社設立までに至りました。

今回会社を設立しての感想は、「金融機関や稲作を依頼する集落の皆さんの意識が変わり、個人経営の時よりも垣根が低くなったように感じる。勿論自分たちの意識も変化しているが、2～3年すれば、更に会社が認知され、頼む方も更に頼みやすくなると思う」とのことです。9月には社員1名を雇用しました。

将来は、稲作の拡大の他、農家レストランを含む農産物直売所の開設も目標としており、今後の発展が期待されます。

■株式会社アグリ東北

住所 金成小堤新田33-1
社長 田中 学氏

本年4月に、社長の田中学氏と専務の鈴木勲夫氏の2名の経営を法人に移行する形で設立されました。



【毎朝の朝礼の風景】

現在の経営面積

は、自作地64ha、作業委託契約（転作大豆）25ha、果樹0.6ha、作業受託6haで、作物別では水稻42ha、大豆47ha、果樹0.6haで、環境保全米栽培、大豆の耕起・同時畝立ては種等の作業の効率化、食味重視の果樹栽培を心がけています。

法人化に向けて着々と準備していたことから、「日常業務に特別の変化はないものの、従業員の意識や対外的な見方が良い方向に変わり、いろんな意味で個人という制限をクリアできた。反面、安全意識の徹底、法令遵守、社会的責任の重大さを痛感している。」とのこと。

3月までは常勤12名、パート8名が業務に従事していましたが、法人化に伴い30代の社員が3名と20代の大卒が1名の計4名が新たに加わり少しずつ若い職場へと変化しつつあります。

今後は、若手管理職、次世代経営者の育成、スクールメリットを活かしながらの品質の向上を課題としており、地域農業のサポーターとしての発展が期待されます。

平成25年度みやぎ農業未来塾 「就農予定者～5年目コース」を開催しました！

平成25年8月7日にみやぎ農業未来塾「就農予定者～5年目コース」を開催しました。今回の塾は、青年農業者の経営意欲を高め、経営発展に役立てることを目的に、石巻市の東日本大震災からの復興に向けて立ち上げられた農業法人及び花き栽培に取り組む青年農業者の経営を視察しました。当日は、栗原市内の青年農業者4人が参加しました。

株式会社スマイルファーム石巻（石巻市須江）では、常務取締役 阿部貴博さんから、会社の経営概要、トマトの栽培状況、経営目標等について、鉢物

栽培を行っている佐々木崇さん（石巻市鹿又）からは、自家の経営概要と担当部門、栽培状況、今後の目標等について講義していただきました。塾生からは「困難に立ち向かう農業法人等の姿勢を見て、ピンチをチャンスに変える心構えの大切さを学ぶことができた」との感想があり、今後の経営に役立つものが得られたのではないかと思います。

普及センターでは、青年農業者の経営安定化が図られるよう、今後も支援を続けていきます。

受賞おめでとうございます！

平成25年8月31日にイオンスーパーセンター栗原志波姫店にて、栗原市民まつり実行委員会主催による「2013 栗原市農林産物品評会」が開催され、次の方々が受賞されました。

賞 名	受賞者氏名	部門・品目
最優秀賞 栗原市長賞 宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所長賞 栗駒高原森林組合代表理事組合長賞	大 内 毅 氏(瀬峰)	野菜・かぼちゃ
優秀賞 栗原市長賞 栗原市農業委員会長賞	三 田 忠 彬 氏(瀬峰)	野菜・たまねぎ
優秀賞 栗原市長賞 栗っこ農業協同組合代表理事組合長賞	片 倉 栄 治 氏(瀬峰)	野菜・ねぎ
優秀賞 栗原市長賞 栗原農業共済組合長理事賞	白 鳥 文 雄 氏(一迫)	花き・きく
優良賞 栗原市長賞	横 堀 匡 史 氏(若柳)	野菜・なす
優良賞 栗原市長賞	伊 藤 隆 氏(瀬峰)	野菜・ミニトマト
優良賞 栗原市長賞	岩 淵 昭 彦 氏(若柳)	花き・花壇苗

<退任農業士の紹介>

平成24年度をもって、指導農業士1名、青年農業士1名が退任されました。これまでの活動に敬意し感謝の意を表すと共に、今後ますますの御活躍を祈念いたします。

☆指導農業士 小林 茂 樹 氏 (若柳)

昭和51年に就農、きゅうり栽培を始め、高品質多収栽培と周年出荷体系を確立されました。栗原市の園芸振興リーダーとして地域農業の牽引役を務め、新技術の導入と技術確立に大きな役割を果たされました。

☆青年農業士 佐藤 俊 一 氏 (高清水)

自家育成を前提とした酪農経営で、常に技術の向上と低コストを意識した経営改善を行ってきました。農村青少年クラブ連絡協議会の要職を歴任し、若くして県酪連の青年部委員、その後も様々な役職を努められ、現在も地域全体の農業振興に大きく貢献されています。



写真 後列 右より一番目 小林さん、二番目 佐藤さん

農薬散布作業中、作業中の事故に注意しましょう